

平成 25 年度 第 2 回新潟市花育推進委員会 会議速報

日 時	平成 26 年 3 月 27 日 (木) 午後 2 時～午後 4 時
会 場	新潟市食育・花育センター講座室 A
出席委員	石井委員、石川委員、伊藤委員、小川委員、片岡委員、関委員、高橋委員、竹内委員、玉木委員、森田委員
欠席委員	なし
傍聴者	なし
事務局	食育・花育センター(大谷所長、木村所長補佐、田中技師、早川職員) 環境政策課(堀之内技師) 保育課(塚田課長補佐) 食と花の推進課(大桃主事) 公園水辺課(桑原課長補佐) 学校支援課(岩崎副参事)

概要

(1) 平成 25 年度新潟市花育関連事業の実施状況について

(事務局説明)

【資料 1～4】を基に説明

(主なご意見等)

- ・ 「3.園芸相談件数」の実績が下がっているが、新潟市ならではの園芸相談をしてはどうか。インターネットの情報を鵜呑みにされると新潟の気候では合わない。同じことを繰り返すのではなく工夫をすべき。
- ・ 「5.全ての園児・児童が参加している保育所、幼稚園、小学校の割合」の数値が意味を成しているのかという点については、以前から議論されているが、本来は途中で質問内容を改善すべきであった。次回をお願いします。
- ・ 「9.生産現場の花育登録活動数」については現在 1 件のみではあるが、にいがた花絵プロジェクトの活動の中で、協力してくださる生産者や団体も多い。そういう団体も数値に含めるべきではないか。
→花育マスターとして登録した団体のみをカウントしていた。地域に根付いて活動していることが大事なので、今後は数値に含めてもよいと思う。

生産現場に直接足を運んでお願いするべきでは。

バスツアー見学に行っている所をお願いしたらどうか。
- ・ 「10.佐潟～」という表現は不適切、たとえば「水辺」という表現はいかがか。
- ・ 以前から議論されているが、当初に設定した指標内容は現在の状況ではたして適当であるか初期の頃から疑問が生じている。途中で見直しが必要だったのかもしれない。今後はこういう形にすべきではないと思う。設定後も状況に合わせて変えていく必要がある。あと一年あるが、今変更することはできるか。

→いただいた意見を元に平成 26 年中に見直しをするので、今後整理していきたい。

(2) 「花育かるた」の選定について

(事務局説明)

【資料 5】を基に説明

(主なご意見等)

- ・ 新潟市食と花の銘産品であるアザレアは入れるべき。
- ・ シャクナゲは日本では有数の産地である。ぜひ入れてほしい。
- ・ ナシ(ナシの花畑)もできれば入れてほしい。
- ・ 事実と間違いが無いように。
- ・ 木や草、ヨモギ、女池菜や越後姫などの食べ物はできるだけ花を中心に変える。

→以上の意見を元に、森田会長と事務局に一任する。

(3) 平成 26 年度花育推進事業の主な取り組みについて

(事務局説明)

【資料 6】を基に説明

(主なご意見等)

- ・ 花育マスター補助者に学生を活用できるのではないかな。
- ・ 花育マスター補助者への謝礼は、内容・人数によるため、実情にあった形で臨機応変に対応する。
- ・ 花育マスターに登録した人でも、実際にどういう活動をするのかわからない人もいるので、再周知してほしい。
- ・ 地域コーディネーター向けへ、花育マスター制度の資料やマスター一覧表などを配布して再 PR してほしい。
- ・ 学校担当者向けの研修があってもよいのではないかな。